

## “今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

- ☆最初のISS構成要素打上げから2083日経過しました
- ☆第9次長期滞在クルーのISS滞在は105日経過しました
- ☆ISS動向

およそ1トンの不要品で満たされたプログレス補給船(14P)は、7月30日午後3時5分にISSから分離し、同日午後7時37分に軌道離脱噴射を行い、同日午後8時12分に大気圏に再突入し、南太平洋上に安全に投棄されたようです。

新たなプログレス補給船(15P)は、米国時間8月11日にカザフスタンのバイコヌール宇宙基地から打ち上げられ、同8月14日にISSとドッキングする予定です。

第9次長期滞在クルーのゲナディ・パダルカ、マイケル・フィンク両宇宙飛行士は、8月3日午後4時10分からおよそ6時間にわたり予定されている船外活動の予行演習やロシア製宇宙服のチェックを行いました。

今回の船外活動の目的は、ロシアモジュール上の実験装置の交換と、来年の欧州補給機(ATV)の初飛行に備えて、「ズヴェズダ」(ロシアのサービスモジュール)へのドッキングのためのレーザ反射器などを取り付けることです。今回の船外活動は、ISS建設のためとしては55回目となります。



教育実験用のトマトの種(左の袋)とフィンク宇宙飛行士



「ピアース」(ロシアのドッキング室)内でロシア製宇宙服を着用するパダルカ宇宙飛行士

## “スペースシャトル飛行再開に向けて”

## ☆スペースシャトルディスカバリー号の現状

NASAケネディ宇宙センターのオービタ整備施設(Orbiter Processing Facility: OPF)でのディスカバリー号の準備状況についてお知らせします。

ディスカバリー号は、電源系の配線などを行うために米国時間6月2日から電源停止期間に入っていましたが、同7月27日に、電源停止期間が終了しました。

コロンビア号事故調査委員会(CAIB)の勧告に応じて、打上げ上昇中にオービタと翼前縁をモニタする温度センサや衝撃センサと外部燃料タンク分離時の観察用カメラ機器やオービタ・ブーム・センサシステム(OBSS)の配線が完了しました。

また、同7月23日には、ディスカバリー号の準備状況についてメディアに公開されました。

出典: <http://www-pao.ksc.nasa.gov/kscpao/status/stsstat/current.htm>

\* RCCパネル: 熱防護用の強化炭素複合材パネル



OPFに集まった取材陣



RCCパネル設置の様子

## “インフォメーション”

## ☆サイエンスキャンプ2004開催

7月26日(月)~28日(水)まで、筑波宇宙センターでサイエンスキャンプ2004が開催されました。全国から集まった高校生30名が、ロケット、人工衛星、有人宇宙開発や月惑星探査についてJAXA職員達から講義を受けました。

2日目はサイエンスキャンプで一番人気のモデルロケット教室を行いました。理論学習、製作、打上げを行い、全員が打上げ・回収に成功しました。

夕方からは参加者と講師達で交流会を行い、昼間の講義で理解不足だった点を質問したり、現場の技術者の声を聴き、宇宙への夢を語り合いました。この交流会を経て、宇宙開発に対する考え方や自分を取り巻く環境に対する見方が変わったと目を輝かせる参加者もいました。

ちょうどこの日は夜8時頃からISSが見える日だったので、交流会の締めくくりとしてグラウンドでISSを観測しました。夜空を通過する光の点に2人の人間が乗っていることを実感すると参加者達の感動もひとしおだったようです。

参加した皆さんにとっては夏休み一番の思い出となったことでしょう。



実験を交えた教室



モデルロケットの打上げ



モデルロケット教室

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール [kibo-pao@jaxa.jp](mailto:kibo-pao@jaxa.jp)

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。